

看護学の教科書・参考書にみる「小児の食事援助」教育内容の分析

Analysis of Educational Contents of [Child Feeding Assistance]
Described in Nursing Textbooks and References

西山 智春, 大室 律子*, 合田 典子**, 布施 千草***
松本 幸枝***, 箕浦 とき子****, 新野 由子*****

* 千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター

** 岡山大学医学部保健学科

*** 植草学園短期大学

**** 岐阜大学医学部看護学科

***** (財)医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構

要 約

本研究の目的は、小児看護学で使用されている教科書・参考書から「小児の食事援助」に関する内容を分析し、その特色や共通点、基礎教育で重視している教育内容を明らかにすることである。インターネットでシラバスを公表している看護系4年制大学21校で使用している教科書・参考書6出版社（8冊）を対象として内容を分析した。その結果は、以下のとおりである。

1) 「小児の食事」に関する内容構成では、①小児各期、②各系統器官別、③日常生活援助技術の3つのパターンがみられた。2) 「離乳食」、「経管栄養」、「間食・補食」、「栄養所要量」の内容は共通して記述され、基礎教育において重視されている。3) 「冷凍母乳の取り扱い」、「経管栄養の種類」、「治療食・特別食」と虐待の1つである「ネグレクト（食事を与えない）」は、1社のみで、簡単な内容の記述であることが明らかとなった。

キーワード：小児の食事援助、小児の栄養、教科書の内容比較、小児看護技術

はじめに

小児における「食事の援助」は、小児の成長発達を促すために必要な栄養補給ができる援助技術の提供が求められている。また、小児期は将来にわたっての健康な食習慣が形成する大切な時期であり、この時期の食生活はさまざまな健康問題へ影響を及ぼすことから、小児各期の成長発達の特徴や安全性を考慮した「食事援助」の学習の意義は大きい。

2003年3月に文部科学省により「看護基礎教育における看護技術の在り方に関する検討会報告」において「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」¹⁾が提出されて以来、小児看護技術（小児の食事援助）を含めた看護技術教育改善に関する研究な

ど多くの取り組みがなされている^{2)~7)}。

しかし、今日、社会のニーズの多様化や質の高い看護が求められ4年制看護系大学が増加する中、小児看護学においてどのような教科書・参考書が活用され、どのような教育内容が網羅されているのかを把握することは重要であると考えたが、それらを明確に示した先行研究は見あたらなかった。

そこで今回、4年制看護系大学の小児看護学の講義等で使用されている教科書・参考書から「小児の食事援助」に焦点をあてて、教育内容の共通点や重視している内容を明らかにし、教授内容・教育方法を検討するための基礎資料を得ることを目的とし考察を試みることにした。

研究目的

小児看護学で使用されている教科書・参考書から「小児の食事援助」に関する内容を分析し、特色や共通点、看護基礎教育について重視している内容を明らかにし、教授内容・方法を検討する資料を得る。

研究方法

1. 対象：インターネットでシラバスを公表している看護系4年制大学21校で、小児看護学「食事の援助」の内容を教授する科目で使用されている教科書・参考書より6出版社（8冊）を選出し、それに記述されている内容を調べ、それぞれの特色を示す。

2. 抽出した6出版社（8冊）の教科書・参考書は、以下のとおりである。

- 1) 奈良間美保他：系統看護学講座専門22 小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院，2003.
- 2) 奈良間美保他：系統看護学講座専門23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論，医学書院，2003.
- 3) 松尾宣武・濱中喜代編：新体系看護学28 小児看護学①小児看護概論・小児保健，メヂカルフレンド社，2004.
- 4) 松尾宣武・濱中喜代編：新体系看護学29 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護，メヂカルフレンド社，2004.
- 5) 氏家幸子監修：母子看護学 小児看護技術，廣川書店，2002.
- 6) 岡田洋子他：小児看護学 小児の主要症状とケア技術，医歯薬出版，2001.
- 7) 吉田時子，前田マスヨ監修：標準看護学講座 29 小児看護学，金原出版，2001.
- 8) 吉武香代子監修：子どもの看護技術，へるす出版，1999.

3. 内容分析の方法

6出版社（8冊）の教科書・参考書を対象に、各々に「小児の食事援助」に関して記述されている構成内容および特色を整理し、比較・検討した。

結果

1. 教科書・参考書の構成とその特色

今回対象とした教科書・参考書の構成内容とその特色を表1に示す。「小児の食事援助」に関する学習内容の構成では、①小児各期に「食事（栄養を含む）」の内容を盛り込んで構成しているもの、②各器官系

統別で「食事（栄養を含む）」の内容を盛り込んで構成しているもの、③日常生活援助技術として「食事（栄養を含む）」の内容を盛り込んで構成しているものなど、3つの構成パターンがみられた。また、教科書・参考書の特色では、①子どものイメージや子どもに対する理解がしやすく実践に活用できるような工夫されているもの、②看護がどのように応えていくかという視点からの看護の構築、③母性看護学と小児看護学を関連させてそれぞれの特色を明確にしたもの、④近年に問題になっている「子ども虐待」や小児医療の課題を取り上げ、最新情報を加えたより実践的な内容など、出版社ごとに各々の特色がみられた。

2. 教科書・参考書の内容分析：「食事の援助」の教育内容

今回の調査対象の教科書・参考書に共通して記述されていた内容は、離乳食（離乳の意義、離乳の進め方）、経管栄養（目的、種類、方法、留意事項）、間食・補食（必要性、与え方）であった。また、栄養所要量については、全ての教科書・参考書に記述がみられたが、母乳栄養の記述は6出版社中4社（約7割）であった。

一方、特加した内容としては、「冷凍母乳の取り扱い（冷凍母乳の意義、母乳分泌をよくする指導、搾乳、冷凍保存）」が1社のみ記述されていた。また、経管栄養については、全社の教科書で共通して記述があったが、経管栄養の種類として、胃瘻カテーテルや十二指腸カテーテルについて、目的、カテーテルの挿入位置、注入時間、留意事項などの説明が付記されたものや、治療食・特別食についての記述がみられたのは、1社のみであり、簡単な説明にとどまっていた。

考察

小児看護学における「小児の食事」に関する教育内容で共通した項目は、「離乳食」、「経管栄養」、「間食」、「栄養所要量」で、基礎教育における小児看護学において重視されていることが明らかとなった。特に、小児では栄養の過不足は成長発達に影響すると共に健康問題に直結するため、小児各期の特徴や必要な栄養を考慮し、適切な食事の援助がなされなければならない。基礎教育においては、食事の意義や援助方法などの基本技術を身につけさせること、さらに食事の援助をする際は、年齢や健康状態を考慮し「事故防止」を念頭においた安全な看護の提供

表1 小児看護学「食事」に関する主な教科書・参考書等の構成内容(項目)と特色

著者代 表等	奈良岡美保 他著	編集 松尾宣武 濱中喜代	監修 氏家幸子 藤原千恵子 他編集	岡田洋子 他著	監修 吉田時子 前田マスコ 小沢道子、 片田純子他著	監修 吉武香代子 野中淳子 編著	
書名	初版1968年 2003年第10版 系統看護学講座専門22 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院	初版2003年 新体系看護学28 小児看護学① 小児看護概論・小児保健 メヂカルフレンド社	初版2003年 新体系看護学29 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社	初版2002年 母子看護学 小児看護技術 廣川書店	初版1999年 2001年第1版 小児看護学 小児の主要症状とケア技術 医歯薬出版	初版1985年 2001年 標準看護学講座29 小児看護学 金原出版	初版1995年 1999年 子どもの看護技術 へるす出版
内容	第3章 新生児・乳児 A 新生児 ③ 栄養 1. 母乳栄養 2. 人工栄養 B 乳児 ⑦ 栄養 1. 栄養所要量 3. 乳児の栄養 3. 離乳食の定義と意義 第4章 児・学童 A 幼児 ⑥ 基本的な生活習慣の獲得 1. 食事 B 学童 ⑦ 栄養と食事・食生活 1. 栄養素 2. 間食 3. 偏食 4. 欠食 5. 肥満・やせ 第5章 思春期・青年期の小児 ④ 栄養と食生活 1. 鉄・カルシウム 2. 栄養バランス 3. 食生活の問題点	第6章 児の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護 A 健康な生活 1. 食事(栄養を含む) 1) 母乳栄養 2) 人工栄養 3) 離乳	第2章 康問題・障害をもつ小児の発達段階に応じた看護 1. 新生児の看護 B 低出生体重児及び健康問題・障害をもつ新生児の看護の基本 2. 栄養管理 1) 低出生体重児 (1) 経管栄養 (2) 経口哺乳 (3) 健康問題・障害をもつ児 2. 乳児期の看護 A 食事(栄養を含む) 3. 幼児期の看護 A 食事(栄養を含む) 4. 学童期の看護 A 食事(栄養を含む) 5. 学童期の看護 A 食事(栄養を含む)	Ⅱ日常生活を援助する看護技術 4. 食事 1) 離乳食 (1) 離乳食の意義 (2) 離乳の進め方 (3) 離乳期の栄養問題 2) 間食 (1) 間食の必要性 (2) 間食の与え方 (3) 間食と健康問題 3) 小児の望ましい食生活 (1) 子どもの食生活の現状 (2) 望ましい食生活としつけ	1. 基本的な日常生活援助技術 生活援助の基本的な考え方 2. 食事 1) 小児期の栄養と食生活の意義と目的 2) 発達段階に応じた食事の援助 授乳/離乳食/幼児食/学童食/おやつ(間食)/治療食 3. 各器官系の健康問題と看護 2. 消化器系 1) 経管栄養法	9. 栄養 1) 補食 2) 離乳食 3) 経管栄養 4) 特別食	Ⅲ子どもの生活援助に関わる看護技術 3. 授乳 A 乳児栄養の特殊性 B 乳児期の栄養摂取機能と発達過程 C 授乳の手順 D 授乳の間隔と回数 E 哺乳障害のある乳児の授乳 4. 冷凍母乳の取り扱い A 冷凍母乳の意義 B 母乳の分泌をよくする指導 C 授乳 D 冷凍保存 5. 離乳食 A 離乳食の意義 B 離乳食のすすめ C 離乳食の実際 6. 経管栄養 A 経管栄養法 B 栄養カテーテルの施行 C 胃瘻カテーテルの施行 D 十二指腸カテーテルの施行
特色	・具体的に子どものイメージを描けるように工夫し、 各々の技術についてその目的を子どもの特性と関連づけて明確に述べ、具体的な方法を実践に活用できる ようにつとめた。 ・近年問題になっている「子ども虐待」や小児医療の課題でもある「事故・外傷」を新たに取り上げ、最新情報を加えたより実践的な内容とした。 「はしがき」より一部抜粋	・各発達段階における看護のあり方、方法が明らかになるように努めた。現在、子どもと家族の「アメリティ」を重視した小児看護技術が求められている。コミュニティ技術、チームワーク医療に着目した。小児と家族は看護に何を求めているのか、看護がどう応えていくのかという視点から看護の構築を試みた。 「まえがき」より一部抜粋	・母性看護学と小児看護学の 共通性や関連性を生かし、 重複する部分を避けて、 それぞれの特色を浮き彫りに した母子看護学シリーズに おいて、小児看護における 看護技術の特徴を明確にす ること、その重要性から独 立した巻として編集した。 「まえがき」より一部抜粋	・「小児看護学の体系的・ 系統的アプローチの実際 (1999年発行)」に連動 させて、実践科学に不可 欠なケアの技術を展開す るよう意図して構成した。 「はじめに」より一部抜粋	・はじめに小児看護学を学 ぶ学生のテキストとして、 ①現実に生活する健康な 子どもと健康障害をもつ 子どもの理解、②個別的な 看護ケアに役立つ知識と 技術、そして態度の提供、 を中心課題とし、その根 底に健康概念・生活概念を おき、生涯にわたる発達を 続ける存在として子どもを とらえようとした。 「序」より一部抜粋	・本書の構成は、ベツサイ ドで小児看護に携わって きた私たちの考えに基づ き、大きく4部構成とし た。構成と内容は、今 日の小児看護臨床の指針 となるものと自負している。 「序文」より一部抜粋	

することが求められている。したがって小児各期の特徴や根拠に基づいた「食事の援助」に関する知識や技術の習得が重要である。

著者は、K短期大学看護学科の小児看護学における単元「小児の食事」について、看護専門科目の小児看護方法Ⅱに位置づけ、講義2時間・演習2時間で実施している。講義では、今回の結果からも重視されていた離乳食、経管栄養、間食、栄養所要量について、各小児各期の目的、方法、留意点等、根拠に基づいて教授している。また演習では、離乳食を実際に目で見て、味わうという体験や新生児モデル人形を用いて経管栄養の方法についてデモンストレーションを実施し、学内での講義・演習が臨地実習につながるような指導ができるように留意している。しかし、著者が実施したK短期大学看護学科の小児看護学実習における小児看護技術体験調査(2005年)では、小児の食事援助の体験率は15.1%という低い結果であった。これは入院患児数の減少や母親の付き添い、実習に対する同意を含めた実習環境の変化が大きく影響していると推測された。

看護師国家試験出題基準(平成15年版)⁸⁾をみると、看護師に求められる小児の食事援助に関する知識として、小児各期の「栄養・食事の援助」が出題範囲に明記され、子どもの成長発達との関連の中で根拠に基づいた援助が求められている。今後は、小児看護学実習において小児の食事援助を体験し学習する機会を調整すると共に、学内における講義・演習のなかで理解が深められるような授業の工夫が必要であると言える。

昨今の少子化社会において、学生は子どもに接する機会が少ないため、子どものイメージ化が困難であると言われている。医療系の基礎教育においては、イメージ化や疑似体験、看護モデルの提示という面でビデオ学習の効果の報告があり^{9)~11)}、今後は小児各期による食事(栄養含む)の特徴をイメージして理解できるような教材研究や教授方法の工夫が必要である。さらに、「食事」を通して、子どもと家族とのコミュニケーション、日常生活、倫理など多角的な視点から小児及び家族に対する看護援助を教授すると共に、乳児期の母乳については母性看護学との

関連が深いため、授業マトリックスを活用するなど、看護関連領域との連携や調整の検討が必要であると考える。

今回の結果では、「小児の食事援助」の中で、近年、社会問題になっている虐待（ネグレクト等）をとりあげていた教科書・参考書は1社であり、「小児の食事援助」での内容との関連は低い傾向にあることが明らかとなった。今日、欧米化した生活や過食などの食生活の変化、運動不足、夜型生活リズム、精神的なストレスなど、小児の食生活や生活リズムに大きな影響を及ぼし、小児を取り巻く環境は変化している。今後は、こうした現代の小児を取り巻く環境の変化、食生活の変化等に関連して増加している肥満や2型糖尿病、食物アレルギー、虐待などの健康問題についても考慮し、常に最新の情報と研究成果を取り入れ「小児の食事（栄養含む）援助」の教育内容を再検討する必要があると考える。

今回は、小児看護学において「小児の食事援助」で活用されている教科書・参考書を用いた構成内容は明確にできたが、全体把握にとどまっており、項目ごとの詳細な記述内容の分析にまでに至らなかった。今後は小児の食事援助に関する記述内容の比較分析を課題としていきたい。また、基礎教育における「小児の食事援助」で何を学ばせるか、指導目標や具体的内容を再検討し、限られた授業時間の中で、子どもと接する機会の少ない学生が子どものイメージ化を図りながら、看護実践能力が高められるような授業展開できるように検討を重ねていきたいと考える。

おわりに

小児の食事は、成長発達を促すとともに、健康への影響に密接な関係がある。個々の対象にあつ援助が実践できるように、健康問題との関連の中で教授していくことが大切である。今後は、小児各期の特徴をふまえ、学生が子どもをイメージ化し、知識を統合できるような授業の構築、教材研究や教育方法の工夫をするなど、今後の課題として検討していきたい。

なお本研究は、千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センター「平成17年度プロジェクト研究」の一部である。

引用文献

- 1) 文部科学省：看護基礎教育における技術教育の在り方に関する検討会報告書。2003.
- 2) 藤内美保，関根剛ら：看護基本技術向上のための技術チェックプログラムの実施。看護教育，46（1）：8-12，2005.
- 3) 小泉仁子，日下和代ら：看護実践能力育成の充実に向けた電子媒体による技術チェックリストの検討。看護教育，46（1）：13-22，2005.
- 4) 小林たつ子，中谷千尋ら：学生の看護実践能力を育む取り組み。看護教育，47（4）：292-296，2006.
- 5) 古屋洋子，小林たつ子ら：看護技術教育カリキュラムの検討。看護教育，47（4）：297-300，2006.
- 6) 武田洋子，小林たつ子ら：臨地実習において看護学生が行う基本的な看護技術の水準1・2に関する教育目標の検討。看護教育，47（4）：301-305，2006.
- 7) 中谷千尋，小林たつ子ら：統合講義・総合技術演習の取り組み。看護教育，47（4）：309-316，2006.
- 8) 厚生労働省健康政策局編集：保健師・助産師・看護師国家試験出題基準（平成15年版）。2003.
- 9) 菊池恵美子，鈴木圭介：問題提起型ビデオ学習の試み。OTジャーナル，24（1）：62-64，2003.
- 10) 栗原泰子，越智由紀子ら：看護技術教育における授業改善への試み（1）。看護教育，41（6）：444-447，2000.
- 11) 柴田文子：ビデオ学習を取り入れの時期的効果。第25回看護学会論文集（看護教育），153-155，1994.

Analysis of Educational Contents of [Child Feeding Assistance] Described in Nursing Textbooks and References

Chiharu Nishiyama, Ritsuko Ohmuro*, Noriko Goda**, Chigusa Fuse***
Yukie Matsumoto***, Tokiko Minoura****, Yoshiko Niino*****

*Center for Education and Research in Nursing Practice, School of Nursing, Chiba University

**Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Okayama University Medical School

***Uekusa Gakuen Junior College

****Nursing Course, Gifu University School of Medicine

*****Institute for Health Economics and Policy

Abstract

The purpose of this study is to analyze the contents of [Child feeding assistance] described in the textbooks and references applied for pediatric nursing science and clarifies the characteristics, the similarities and the educational points emphasized by fundamental education.

The textbooks and the references (8 books published by 6 publishers) applied by 4-year nursing colleges releasing syllabus through Internets were subjected to this analysis. The results are as follows:

- 1) The content of [Meals for children] was consisted of (1) each pediatric period, (2) each organ systems, (3) skills for daily life assistance.
- 2) All books describe [Baby food], [Tube feeding], [Snacks and supplemental meals] and [Nutritional requirements], all of which are emphasized in fundamental education.
- 3) It has become clear that only one publisher briefly describes [Procedure for how to take care of frozen breast milk], [types of tube feeding] [Therapeutic diet and special diet] and one of abuse, [Neglect (without feeding)]

Keywords: Help with child feeding, Nutrition requirements for children, Comparison between contents of textbooks, Pediatric nursing skill